

鹿児島医セン

連携室だより

2007.11 No.20

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

治験管理室に機構本部治験専門職が来られました

当院には循環器疾患、がん、エイズの臨床研究を支えるため、質の高い臨床研究を目指す目的で、臨床研究部が平成11年に設置されています。今年の10月1日で8年が経ち、時の流れの早さにただ驚くばかりです。当院の臨床研究の大きな目標として治験の推進があります。臨床研究部内に治験管理室を整備し、室長に臨床研究部長、副室長に治療評価研究室長、事務局長に薬剤科長、契約担当として業務班長、そして専任治験コーディネーター2名（薬剤師1名、看護師1名）の構成で治験の推進に努めています。また、非常勤の治験コーディネーター1名と治験専任事務官が1名配置されており、治験業務のサポートを担っています。治験は、治験責任医師や治験分担医師だけの奮闘でできるものではなく、病院各部署の協力体制が必要です。専任の治験コーディネーターが、治験がスムーズに進行する様に“潤滑油”の役目を担い、治験の科学性、信頼性、倫理性の向上に尽力しています。平成18年度の治験の件数は9件、受託研究は53件でした。

さて、国立病院機構病院グループの総本山である東京目黒区東が丘の国立病院機構本部には、各施設の治験を円滑に実施できる様に、依頼者への総合的な窓口として「治験推進室」が設置されています。今年9月14日（金曜日）にその治験推進室の内野悦夫治験専門職が当院治験管理室を訪問されました。内野治験専門職は旧国立病院が独立行政法人化された当初から、国立病院機構本部において、国立病院機構全体の治験推進に尽力されている方です。当日は8階の治験管理室で、臨床研究部長、薬剤科長、業務班長、CRC2名で対応しました。また、統括診療部長にも臨席を賜りました。

今回の内野治験専門職の来院の目的は、当院の治験推進に向けての業務支援ということで、当院の治験の実状を直接治験管理室の関係者に会ってヒアリングし、アドバイスするというものでした。現在、機構本部治験推進室からは、新規の治験が当院で実施可能か否かを調べるために、メールでの調査が毎週の様に来ています。その中には、当院で扱っていない疾患や初めから治験が不可能な分野の調査もあります。今回の内野治験専門職の来院は機構本部治験推進室が施設の現状をわきまえてもっと細やかな対応をしていきたいと考えている



ことの表れだと思えます。

会議の中で、当院のこれから目指す目標が明らかになった様に思います。

その目標は以下の3つです。

- ① いかにして治験の事を院内外にアピールして治験の数を増やすか。
- ② がんの治験を増やすことが必要。
（特にがんのI相臨床試験ができないか。）
- ③ 治験の理解への啓蒙活動が必要。

これらの目標を達成すべく一歩一歩治験の推進に向けて治験管理室一同頑張る所存です。皆様の御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。写真は治験管理室（後方の収納ボックスの中に治験の資料を納めています）と必須文書の直接閲覧の様子です。（治験管理責任者 臨床研究部長 城ヶ崎 倫久）

助産師外来開設について

当病棟は産婦人科を主に女性の混合病棟で産婦人科医師は2名、助産師は7名、看護師12名で構成しています。

平成18年度は、年間分娩件数67件で施設の特徴から減少傾向です。また産婦人科外来に常時助産師が勤務していないこともあり、産婦さんやお産後のお母さんの保健指導や授乳指導も十分に行えていない現状でした。

少ない出産ではありますが、ひとつひとつのお産を大事にしており、出産後はできるだけ母乳育児を支援し母子同室をとって、お母さんと赤ちゃんが安心して育児をできるような環境を作るように心がけています。退院後の育児がスムーズにできるように沐浴の練習や、授乳指導、育児指導をきめ細やかに行っていきます。退院後、赤ちゃんの体重の増加が十分でなかったり、授乳に心配のあるお母さんは病棟で退院後も相談にのったりフォローしています。退院後の1ヶ月健診では、大きくなった赤ちゃんの姿を病棟まで見せにきてくださいます。お母さんも心なしかたくなましくなったように感じるひとときです。また、経産のリピーターが多いのも特徴です。

「10ヶ月を通して産婦さんと接し、よりよい指導をしたい」などの助産師の熱い思いがあり、「何かサポートできることはないか」と助産師としての専門性を発揮したい声があがるようになってきました。妊産婦さんや分娩後のお母さんの保健指導の充実、母乳に関するケアや相談など様々なニーズを出来るだけ満たしていけるように平成19年10月より「助産師外来・母乳外来」を開設しました。

「助産師外来・母乳外来」の概要

助産師外来とは、本来、正常な妊娠経過をたどる妊婦が対象です。正常な妊娠経過をたどる妊婦は、助産師だけの診察でよく、医師の診察は、予定日決定後の10ヶ月を通して数回でよいです。(少し健診費が安くなります)しかし、合併症・既往がある妊婦、異常な経過をたどる妊婦は、医師による健診になります。

当院での「助産師外来」では助産師が中心となって妊婦健診や保健指導を行います。妊婦さんが満足できるマタニティライフをおくれるように援助いたします。お産後のお体の状態をみながら各個人にあった保健指導を行ない育児についてなど不安なこと心配な



ことをゆっくりとお話を伺います。「助産師外来」なので助産師だけで診察するのか?といった不安もあるでしょうが当院の場合、当面は医師と合同で診察やエコーを行います。健診は水曜日以外の月曜日から金曜日の午前中に行っています。健診時に予約を行っています。

母乳外来はお産後の乳房トラブルやケア、授乳方法などに関する相談などがあれば、乳房マッサージを行ったりお話しを伺ったりします。赤ちゃんの体重増加をみたり、哺乳状況をみたりもします。受診日は水曜日の午前(10:00～11:00)と午後(14:00～15:00)に行っています。予約制になっていて電話予約は13時～15時に鹿児島医療センター産婦人科外来で受け付けておりますので詳しくお聞きになりたいかたはご連絡下さい。

開設したばかりで、まだ指導などが不十分ではありますが、スタッフ一丸となって取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。

東3階病棟看護師長 中元 めぐみ

登録医医療機関紹介 第7回

医療法人恵徳会 小田代病院

当院は昭和43年8月10日に理事長の小田代憲一が小田代外科として開設し、昭和58年からは医療法人恵徳会小田代病院となり現在に至っております。ベッド数53床(一般病床)で、外科(消化器・末梢血管)・整形外科・内科を主診療科とし、計88名のスタッフが急性期医療ならびにリハビリテーションを中心とした慢性期医療に一生懸命取り組んでおります。また開設以来、理事長の“病気に休みはございません。”の考えのもと、365日・24時間体制の救急医療に特に力を注いでおり、最近では月平均70台程度の救急車を昼夜を問わず受け入れております。そのため脳血管障害の患者様が受診される機会も少なくなく、濱田陸三先生をはじめとする鹿児島医療センター脳血管内科の先生方にはいつも大変お世話になっております。脳卒中ホットラインが設置される以前は脳血管障害が疑われる患者様が受診された場合、受け入れていただける医療機関を探すのに一苦勞でしたが、最近では電話一本で迅速に対応していただき、非常に助



かっております。また交通外傷等による頭蓋内出血や頸髄損傷の際には、脳神経外科の今村純一先生にいつも快く受け入れていただき感謝しております。救急医療においては可能な限り当院で対応したいと考えておりますが、どうしても対応しきれないケースはお願いすることも多いかと思っておりますので今後ともよろしくお願いたします。

院長 小田代 卓也

診療メモ

「男性癌の増加率第1位」

米国では30年以上前から男性の部位別癌罹患率で前立腺癌が第1位でしたが、近年日本でもその増加傾向は顕著となっており、2020年の男性における癌の罹患率では肺癌に次いで第2位になるだろうと予測されています。増加率で見ますと1995年のなんと5.9倍という予測で、これは腎癌・食道癌の2.5倍を大きく引き離してダントツの1位となっています。もともと前立腺癌は高齢になるとその発症率が増加する事から、社会の高齢化に伴い増えてきた側面もありますが、生活習慣、特に食事の欧米化も関与していると考えられています。そのような前立腺癌の発症率・罹患率増加の背景にある様々な要因の中でも特に注目したいのが診断法の進歩です。非常に有用な腫瘍マーカーであるPSAの普及によって早期に診断され根治的な治療が選択できる症例が非常に増えてまいりました。これは患者さんの前立腺癌に対する関心が高まった事とともに、泌尿器科以外の診療科でのPSAの活用が非常に有効に活発に行われるようになった事が最大の要因です。当科における前立腺針生検施行例の約8割は他院でPSAの異常を指摘され紹介いただいた症例です。当科では一泊入院で、従来の経直腸的6ヶ所採取ではなく経会陰的12ヶ所採取で生検を行っていますが、その結果PSA値が4～10のいわゆるグレイゾーンの患者さんでも約4割の方で早期癌が検出されています。早期発見・早期治療が予後の改善につながりますので、60歳以上の男性患者さんでは是非年に一回のPSA測定をお願いいたします。

(泌尿器科医長 飯屋 知)

新new任 紹face介



消化器内科医師

なかざわ じゅんいち
中澤 潤一

平成19年10月より消化器内科に移動となりました中澤と申します。平成15年宮崎大学を卒業、この春より鹿児島大学第2内科に入局しました。不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけすると思っておりますが、よろしくお願ひいたします。



消化器内科レジデント

ふじた としひろ
藤田 俊浩

平成17年鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学の臨床研修プログラムで2年間研修しました。平成19年4月に(旧)第二内科に入局し、半年間の大学病院勤務を経て10月から消化器内科レジデントとして勤務することになりました。消化器内科としての勤務は初めてであり、何かと御迷惑をおかけすることもありますが、どうか宜しくお願ひ致します。



第一循環器科レジデント

なかすじ
中筋 あや

平成17年に鹿児島大学を卒業し、2年間鹿児島大学の研修プログラムで研修をしました。平成19年4月より(旧)第一内科に入局し、大学勤務を経たあと9月より第一循環器科で働かせていただくことになりました。循環器科として初めての出張でありご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、ご指導の程宜しくお願ひいたします。



泌尿器科レジデント

よねざわ ともかず
米澤 智一

平成13年鹿児島大学卒業です。本年9月より着任いたしました。患者様が非常に多いので、勉強になっています。1ヶ月がすぎて、ますます楽しく仕事しています。泌尿器科レジデントとして、わずか半年の勤務予定ですが、よろしくお願ひいたします。



神経内科レジデント

しのはら かずや
篠原 和也

この度10月から脳血管内科に配属となりました篠原和也と申します。前任地は鹿児島市医師会病院です。神経内科としては成り立てでわからないことがまだまだ山積ですが、まわりの先生方に助けて頂きながらなんとか頑張っております。他科の先生方にもご迷惑をおかけすることが多々あるかと思っておりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関はご連絡下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
http://www.kagomc.jp
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、池上、善福
直通電話 ▶▶ 099-223-4425
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
※休日・時間外は当直者で対応します。

